

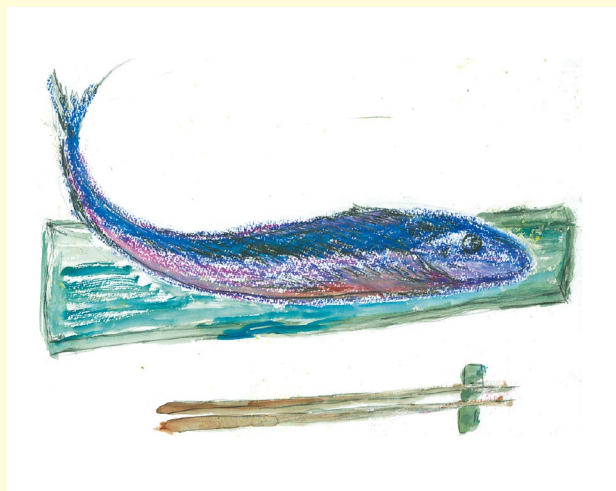
十数年前のこと。私はそのころ、日本画の先生について絵を習っていて、秋も深まったある日、ぶどうの葉を拾い、絵にしてみようと思い実物大で描きました。顔彩という日本画の初歩の絵の具と出会い、絵を描くのが楽しくて仕方なく、この絵はご飯をつくるのも忘れて夕方まで描いていて、仕事から帰ってきた夫が「まるで貼り付けたようだね」と言ったのを覚えています。そのときは躁の入口で、この絵の後すぐに入院しました。

現在、私は55歳ですが30歳のとき、出産を機に躁うつ病を発病して入退院を繰り返しています。若いころはマンガ家のアシスタントをしたり、自分のマンガが雑誌に載ったりしたのですが、近ごろそんなことはなく、今回表紙に採用されてとても嬉しいです。これからも絵を描く励みになります。ありがとうございます。



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



杉原秋雄「島の魚」

人生で初めて、自分の絵が掲載され、とても嬉しく思います。(杉原秋雄)

杉原さんは、脳出血による右片麻痺となり、トラックの運転手を退職されました。昔から絵を描くことが大好きで、仕事の合間にも絵を描かれていたそうです。退職後も絵を描くことだけは続けられていました。

絵を初めて見せていただいたとき、とてもうまく描けていて、スタッフの皆が驚きました。今回の応募を提案したとき、照れながらも応募することを決め、この「島の魚」を描かれました。故郷の島を思い出して描いたと、お話ししてくださいました。(担当 OT：岡本尚子)